

THE



COMEDY

キング・オブ・コメディ



どんで終るより
ひと晩だけでも
キングになりたい!

ロバート・デ・ニーロ
ジェリー・ルイス
タイアン・アボット
サンドラ・バーンハード
シェリー・ハック

監督■マーチン・スコセッシ
製作■アーノン・ミルチャン
脚本■ポール・D・ジーママン
音楽監督■ロビー・ロバートソン
サントラ盤 ワーナー・バイオニクスレコード
アメリカ映画/カラー作品
松竹富士株式会社 配給

●昭和58年度文化庁芸術祭参加

'83 カンヌ映画祭オープニング作品

またも何かをしでかした!! 映画界の異色コンビが放つ 衝撃の話題作!!



第一作、「ミン・ストリート」で組んで以来10年。「タクシー・ドライバー」(カンヌ映画祭グランプリ)、「レイジング・ブル」(アカデミー主演男優賞)と、常にセンセーションを起してきた映画界の爆弾コンビ、主演/ロバート・デ・ニーロ、監督/マーチン・スコセッシが、またまたとんでもない新作を完成した。

ニューヨークに住むルバート・パブキンは、狂がつくコメディ・ファン。TVトークショーの人気者ジェリーをアイドルに、いつの日かコメディの大スターたらんと夢見ていた。ある日、強引にもジェリーとの接触に成功したパブキン、自分の芸を売り込もうとハヤがるが、彼の二歩もない態度



に再三追い帰される始末。アタマにきたパブキン、やはりジェリー・ファンのかれたネエチャンと組んでジェリー誘拐の暴挙に出る。スターを脅迫して彼の番組をハイジャック、何と自分が出演しちゃおうという算段!?果たして男のモクロミは成功するか。

見果てぬアメリカン・ドリームを短絡して突っ走ったある男の悲喜劇。デ・ニーロ、スコセッシのマニアックな演技・演出が、今年度カンヌ映画祭オープニング上映で騒然たる話題を呼んだドラマチック・コメディだ。

画面にみなぎる不気味なリアリティ 背筋をつたうTV界の恐怖!!

ジョーディ・フォスター脅迫事件、ジョン・レノン暗殺事件……スターに対して偏執的妄想を抱くファンの異常心理が横行する現代アメリカ。元ニューズウィーク誌の敏腕ライター、ポール・D・ジーママンのオリジナル脚本は、ズバリ、TV界の機構からま

せてこの恐怖を衝いたものだ。話題は、50年代を風びした「底抜けシリーズ」で人気を呼んだジェリー・ルイスが、アイドルに扮し、あつと驚くシリアス演技を展開していること。デ・ニーロとの絡みが不気味な緊張感をもし出している。また、「ラスト・ワルツ」以来、スコセッシお気に入りのロビー・ロバートソン(元「ザ・バンドリーダー」)が、音楽監督として就き、デビッド・サンボーン、ボブ・ジェイムズ、リッキー・リー・ジョーンズら人気アーティストを配した豪華なサウンドを提供している。



THE KING COMEDY

キングオブコメディ

アメリカ映画/カラー作品/松竹富士株式会社配給

マスコミを圧倒して 話・題・騒・然・!

「ロバート・デ・ニーロは、今日の映画界で、最も偉大で人騒がせな俳優。そして、マーチン・スコセッシは、自らの才能を最高度に発揮できる監督。それを疑うものは「キング・オブ・コメディ」を見るがよい。」
—— ヴォーグ・メモリー・ハスケル

「大ケツサク——とてもおかしな映画だ。ラストの気分は特に最高。とにかく私にとっては完璧に驚かされ、満足した作品。スコセッシは、彼の同世代監督中、最も信頼感があり、独創的であるという評価を再び確固たるものにした。」
—— ニューヨーク・タイムズヘンセント・キャンビー

「デ・ニーロ演じるルバート・パブキンは、現代のおかしな、しかし恐ろしい生き物だ。この一枚の肖像画が加わって、俳優デ・ニーロのコレクションは益々完璧なものに近づいた。」
—— ニューズウィークヘジャック・クロール

'84年陽春ロードショー 丸の内ピカデリー 新宿ピカデリー
(201)2881 (352)1771 他